

2019年8月4日(日曜日)

## 「ア・マノー手によって」

《アンケートより》

- ・ねんどがうごいてみたいで、おもしろかった。(10歳未満女の子)
- ・映画を観ているようで、とても幻想的でした。手の動きがすばらしかった。是非また来てほしいです!お願いします!(30代女性)
- ・子どもと笑いながらみることができました。言葉がなくても笑いがおこることが楽しかったです。ずっと見ていたくなりました。(30代女性)
- ・先がよめなく、どきどきしました。びっくりすることが続いた。(40代女性)
- ・手の動きが、本当の人間の体のようでした。海外の作品を観られるなんて、本当に貴重です。毎年海外作品を上演してほしいです。(50代女性)
- ・静かな中で、想像をふくらませながら、たのしく展開をみていくのがおもしろかったです。(60代女性)
- ・指の動きで感情表現ができることが素晴らしい。舞台のセッティングもよかったです。もう少し観客席が近くてもよかったです。(70歳以上女性)

＜担当者より＞

粘土の土くれに生命が吹き込まれ、紙芝居の枠ほどの小さな舞台上で繰り広げられる出会いと別れ。言葉のない物語。4本の手や指の動きが、まるで本当の体のようでした。生き生きと動く人形に想像をふくらませ、みなさんに楽しんでいただくことができました。小さな小さな舞台だったので、客席の両側後方の方が少し見づらかったようです。席設定や客席設営の際に、もう少し細かく配慮していきたいと思います。今後も、国内作品と一味違う海外の作品を、みなさんに紹介していきたいと思っています。



2018年8月17日(土曜日)

ゆめプラONEコイン映画会

## 「ペンギン・ハイウェイ～石田祐康監督を迎えて～」

《アンケートより》

- ・他のイベントではないような、小さい頃の話まで聞けて大変よかったです。(10代男性)
- ・ゆめプラで初めて映画を見て、夏休みのいい思い出になりました。今まで見た映画の中でも一番よかったです。トークショーもおもしろくて(すごく)自分も絵が大好きなのでこれからも夢に向かってがんばりたいです。(10代女性)
- ・おもしろかったです。原作本も読んでみようと思います。子供も楽しめて見られました。(30代女性)
- ・監督のお話を聞いたのはすごくよかったです。次回も作品にかかわった方の話を聞きたいです。(40代男性)
- ・アニメは光と影の描写がCGより、ずっと感動的(心にひびく)。トークは石田監督のこぼ「高い志を持つ大切さ」に感動した。表現したいものが強く胸にせまってきた。(60代男性)
- ・子供たちにはワンコインはありがたく楽しめました。カントクも親しみやすい感じでした。きれいで不思議、もう一度みたいです。(60代女性)
- ・美浜町出身の監督ということで身内のような喜びでした。今後も活躍してほしいと思います。みんなに夢を持たせる映画でした。(70歳以上女性)

＜担当者より＞

久しぶりのONE コイン映画会でした。地元出身の監督ということで、会場は満席でした。映画の最中も子ども達の笑い声が聞こえ、とても温かい雰囲気でした。監督のトークショーもあり、子ども時代のお話や、作品への想いなども聞くことができました。また、今回の映画会では関連企画として「原画展」も行われ、石田監督の作品をたっぷり楽しめる企画となりました。終演後はサイン会も行われ、多くの方にご参加いただきました。夏休みの楽しい1日になりました。今年の夏は猛暑であつたうえに、会館の空調故障という予測不能な事態が起こり、お客様には大変ご迷惑をおかけしました。当日は朝から暑かったため、急遽入場整理券を発行し、響きホールを待合所として解放したのですが、告知が行き届かず不快な思いをされた方もいらしたようで、重ねてお詫び申し上げます。



2019年8月18日(日曜日)

## ゆめたろう寄席「納涼の会」 出演:柳家喬太郎・三遊亭兼好・柳亭小痴楽ほか

《アンケートより》

- ・この夏一番のプログラムでしたので大阪から観に来ました。とてもおもしろかったです。ありがとうございます。(40代女性)
- ・昨年の寄席同様、今回も超面白く良く笑わせてもらいました。秋の寄席も来て笑わせてもらいます。来年も来てね!(60代男性)
- ・開口一番の方、声の通りはとても良いのに早口なので少し聞き取りにくい。若手全般の方、早口が多い。落語ファンは年配者が多いと思います。真打ちの3人、申し分ありませんでした。(60代女性)
- ・日頃、テレビなどで見ていないのでとても興味を持ちました。久しぶりで腹の底から笑えました。(70歳以上男性)

＜担当者より＞

昨年の経験から今年度は指定席の公演にしましたが、お客様からの評判がよく、満席の公演でした。前座さん合わせて4名に出演いただきましたが、どの落語も十人十色で個性に溢れ、会場は初めから笑いに包まれていました。柳家喬太郎さんは流石「真打ち」という落語で、枕からすっきり引き込まれました。今後もゆめたろう寄席を継続していきたいと思っています。

